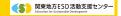
ESD/SDGsについて

群馬県環境アドバイザー連絡協議会(第11期) 総会

平成30年6月28日(木)





【関東ESDセンターの役割】

- ① ESD活動を支援する 情報共有機能
- ② 現場のニーズを反映した ESD活動の 支援機能
- ③ ESD活動のネットワークの 形成機能
- 4 人材育成機能

【関東ESDセンター今年度の主要事業】

- ・ESD実践・推進にかかる相談/支援
- ・ウェブサイト、メールマガジン等による情報発信
- ・地域におけるESD推進の課題・ニーズの把握
- 「地域にのいるこうり]住座の床屋・一人の门口住
- ・関東地方ESD推進ネットワーク・フォーラムの開催
- ・地域ESD拠点の形成・ネットワークの 構築
- ・地域ESD拠点間、ESD実践者の学び合いの 場づくり

【Webサイト】

http://kanto.esdcenter.jp/



関東地方ESD活動支援センター Education for Sentainable Development

関東地方ESD活動支援センター

【概要】

名 称: 関東地方ESD活動支援センター

略 称:関東ESDセンター

英語名: ESD Resource Center of Kanto, Japan

開設日:平成29年7月3日(月)

連絡先:〒150-0001

東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B1F

TEL: 03-6427-7975 FAX: 03-6427-7976

URL: http://kanto.esdcenter.jp/ E-mail: kanto@kanto-esdcenter.jp

【ロゴマーク】



■関東地方ESD活動支援センター

[ESD]

聞いたことがありますか?



Education for~ のための教育
Sustainable ~持続可能な
evelopment ~開発・発展

持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発のための教育(ESD)」は、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。【ESD国内実施計画より】

ESD推進の経緯

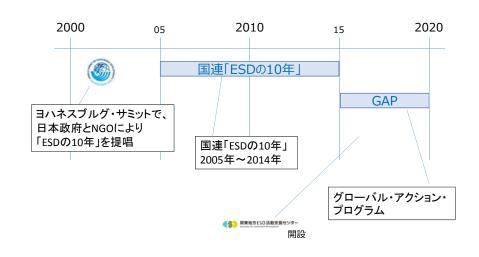
- 2002年(H14)持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)で「ESDの10年(DESD)」が提唱される。
- 2005年(H17) 国連持続可能な開発のための教育の10年開始 ~2014年(H26)まで
- 2014年(H26)「ESDに関するユネスコ世界会議」においてDESDの 後継プログラムとして「ESDに関するグローバル・アクション・プログ ラム(GAP)」の開始が正式発表
- 2015年(H27) ESD活動支援企画運営準備委員会において検討開始
- 2016年(H28) 「我が国における『持続可能な開発のための教育 (ESD) に関するグローバル・アクション・プログラム』実施計画」 (ESD国内実施計画)が関係省庁連絡会議 で決定
- 2016年(H28)平成28年4月 ESD活動支援センター(全国) 開設

【ESD国内実施計画(抜粋)】

[~ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、拠点の形成とともに、地域が必要とする取組支援や情報・経験を共有できる「ESD活動支援センター(全国・地方)」を整備し、地域の実態を踏まえた効果的な運用を図っていく。]

| 関東地方ESD活動支援センター | Education for Stationable Development

ESD推進の経緯(年表)

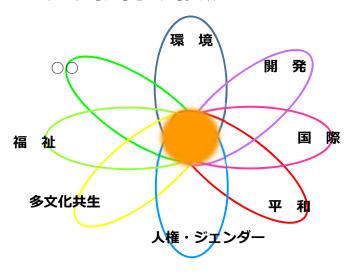


関東地方ESD活動支援センター
 Guedles for Sustainable Development

地球規模課題の深刻化



○ () 教育の接点 = ESD





ESDの特徴

ESDの対象は子ども だけだはありません 学校、企業、地域住民、行政、NPO・・・ 多様な立場や世代の人々がESDの担い手であり、 学び手です。



「協働」する意識

- ・適切な役割分担
- ・対等な立場
- ・相互に協力
- お互いの強みを 活かして、同じ課 題を共有し、協力 し合う
- =持続可能な社会



ESDの特徴

「教える」教育ではありません

具体的な課題・問題を解決するために考え、話し合い、行動しながら学ぶ学習活動です。



「気付き」を大切 にする

- ・どうして?
- 誰が?
- ・どこで?
- ・どうしたら?

ESDの特徴

未来を描くこと

地域の歴史や現実を学び、そこから自分たちが望む 未来を描くことから始まります。

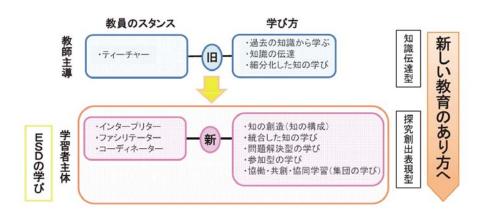


50年後も、 100年後も、 自分の子どもも、 孫も、そのまた 子どもも、 ずっとこの地域で 暮らすために

関東地方ESD活動支援センター

関東地方ESD活動支援センター Education for Scattainship Development

ESDの進め方



環境省「ESD 環境教育モデルプログラムガイドブック②」 平成26年7月発行 より



学習指導要領の改訂

■ 前文(幼・小・中)

これからの学校(幼稚園)には、・・・一人一人の生徒(幼児・児童)が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする・・・ことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校(幼稚園)において教育の内容等を組織しかつ計画的に組み立てた教育課程である。

この考え方は、 ESDそのものです

平成29年3月31日公示 新学習指導要領



学習指導要領の改訂

学習指導要領の改訂

小学校:2020年度 中学校:2021年度 高校:2022年度以降

グローバル化や人口減がますます進むと 予想される2030年代に社会人とな る今の子どもたちが小中学校や高校で 何を学ぶべきなのかを示す。







NHK 「時論公論」 2016年12月23日 (金) 「学習指導要領改訂 新たな学びは実現するのか」 西川 龍一 解説委員 より抜粋

> 関東地方ESD活動支援センター Education for Suntainable Development

学習指導要領の改訂

学び方としては・・・

- ① 教科横断的な視点 「カリキュラム・マネジメント」
- ② <u>主体的・対話的で深い学び</u> 「アクティブ・ラーニング」

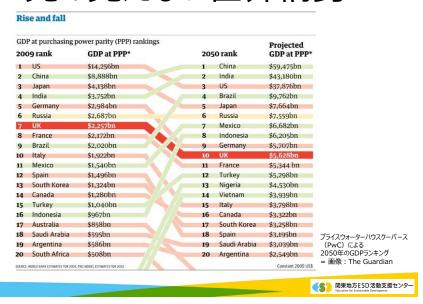
(問題解決的な学び)

グンマノミライ2030

「ESD」の意義



先の見えない世界情勢



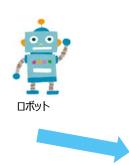
今後、社会は大きく変わる



ΔΤ



自動運転



銀河鉄道999で描かれたような、 機械に支配されるかもしれない話は、 遠い将来の話ではない。



こうならないためには?

技術の進歩は人間を駄目にする?



- ・知らないことは、すぐ検索
- ・ナビなしではどこにも行けない ・コミュニケーションはSNSだけ?
- ・記憶は不要

スマホ



- ・火を見た事がない子ども ・ライター、マッチが使えない
- ・「火は危ない」事をしらない

ΙH

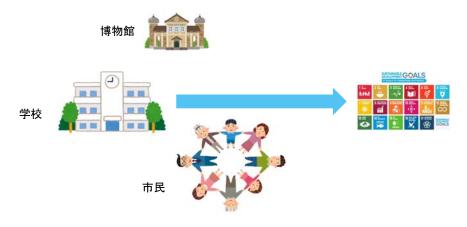


インフラが止まった時、何も出来ない





ESDの進め方のイメージ



学校と、地域社会のあらゆる主体が連携して、実際の地域課題を解決する方法を考え、学び、実践していくことが大切。



[SDGs]

聞いたことがありますか?



「ESD」と「SDGs]の関係



持続可能な開発目標(SDGs)



国連が初めて定めた、 全世界を対象とした 開発目標



持続可能な開発目標(SDGs)





- ・2030年を達成期限とする17のゴール、169のターゲット
- ・"誰も取り残さない"持続可能な社会を目指す



関東地方ESD活動支援センター

持続可能な開発目標(SDGs)

⊜

貧困をなくす

飢餓をなくす

健康と福祉

質の高い教育

学習の機会を促進する。

ジェンダー平等

水と衛生

確保する。

を促進する。

あらゆる場所のあらゆる形態の 貧困を終わらせる。

飢餓を終わらせ、食料安全保

障及び栄養改善を実現し、持

あらゆる年齢のすべての人々の

健康的な生活を確保し、福祉

すべての人に包摂的かつ公正な

質の高い教育を確保し、生涯

の女性及び女児の能力強化を

すべての人々の水と衛生の利

用可能性と持続可能な管理を

続可能な農業を促進する。



8 ******

誰もが使えるえる クリーンエネルギー

経済成長

ションの推進を図る。

格差の是正

正する。

すべての人々の、安価かつ信頼で きる持続可能な近代的エネルギー へのアクセスを確保する。 |ディーセントワークと|

包摂的かつ持続可能な経済成長及びす

べての人々の完全かつ生産的な雇用と働

きがいのある人間らしい雇用を促進する。

産業·技術革新·社会基盤

強靱なインフラ構築、包摂的かつ持

続可能な産業化の促進及びイノベー



気候変動及びその影響を軽減す るための緊急対策を講じる。

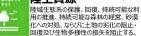


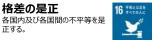
海洋資源

持続可能な開発のために海洋・海 洋資源を保全し、持続可能な形 で利用する。



陸上資源





平和、正義、有効な制度

持続可能な開発のための平和で包摂的 な社会を促進し、すべての人々に司法へ のアクセスを提供し、あらゆるレベルにおい て効果的で説明責任のある包摂的な制



持続可能なまちづくり

17 論論 目標達成に向けた パートナーシップ

段を強化し、グローバル・パートナー シップを活性化する。



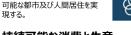
を確保する。



 $\langle = \rangle$

持続可能な消費と生産

持続可能な生産消費形態



持続可能な開発のための実施手

26

「SDGs」と「環境」



日本政府としての取組

🎬 首相官邸 Frime Minister of Japan and His Cabinet

政策会議

▲ トップページへ

トップ > 会議等一覧 > 持続可能な開発目標 (SDGs) 推進本部

持続可能な開発目標(SDGs)推進本部

持続可能な開発目標(SDGs)に係る施策の実施について、関係行政機関 相互の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的に推進するため、全国務大臣を 構成員とする持続可能な開発目標(SDGs)推進本部を設置しています。

平成28年に設置され、年2回、各国務大臣が参加して開催されている。

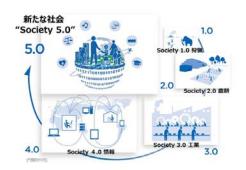
関東地方ESD活動支援センター

企業は積極的に取組み

Keidanren Policy & Action 経団連が「企業行動憲章」を改定

~Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成~

広く社会に有用で新たな付加価値および雇用の創造、ESG(環境・社会・ガバナンス)に配慮した経営の推進により、Society 5.0の実現、SDGsの達成に向けて行動する。



Society 5.0とは

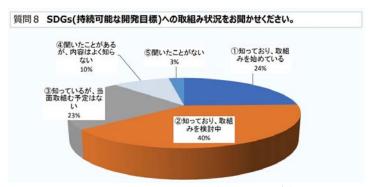
サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間 (現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、 人間中心の社会(Society)

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に 続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技 術基本計画において我が国が目指すべき未来 社会の姿として初めて提唱されました。



Keidanren Society 5.0 for SDGs Society 5.0は「課題解決」と「未来創造」の視点を兼ね備えた新たな成長モデル さらには、国連で掲げられた 8 スマート農業により食糧生産を増大 水質、森林、土地劣化、生物多様性な なのモニタリングおよびマネラメント に、**リモートセンシング・データや、** 海洋観測データを返用 多種多様なモニタリングデー 早期警戒システムを開発 用いて、気象観測データ ションにより、気候変動队 避を解決 e-ラーニングシステムを for もが高品質の教育を手頃な 価格で享受可能に 利便性、安全性、経済性を 同立させた**スマートな都市** を創出 インターネットを通じた教育や情報へのアクセスにより女性の 地位を向上 ICTを活用して女性に起業の機 産業界、学術界、その他のステー クホルダーを結びつけることで、 グローバルなイノベーション エコシステムを構築 i-Constructionを活用し、レジリエントな フラの構築と持続可能な産業化を促進 経団連はSDGsを支援しています。 関東地方ESD活動支援センター

企業は積極的に取組み



年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が東証一部上場企業に対して行なったアンケート(2018年2月)

「SDGsについては、知っている企業が8割超と急速に認知度が向上。取組みを始めている企業や取組みを検討している企業は6割超に達する。



ご紹介

ESD活動支援センター (全国・地方)



「地域ESD拠点」

地域ESD拠点には、地方センターの地域におけるパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDをさまざまな形で支援することでESD推進ネットワークの中で中核的な役割を果たすことが期待されています。



2017年 地方ESD活動支援センター開設



群馬での取り組み

地域ESD活動推進拠点



チャウス自然体験学校(群馬県桐生市)



参加者の声

- ・「魚を育てるのは大変だね」と言っていました。 いつも食べている魚に対して「おいしく食べるね」と色々思いながら 感謝して食べることができるようになりました。(保護者)
- ・子供がサケを一牛懸命育てていた。(保護者)
- ・生き物や自然の大切さを知る良い機会になりました。(保護者)

(多) 関東地方ESD活動支援センター

群馬での取り組み

ンマノミライ2030

現実を知るという事で、「水源を知るツアー」を企画。上流下流の流域連携の仕組みを作って交流をしていく。

2. 宝物「貴重な自然」

子供の頃からの体験を通した教育と、自然保護活動に参加してもらうためのPR。

3. 課題「マイカー依存からの脱却」

スマートシティ化として自動車のいらない街を第一の目標にして、それを達成するために、自転車やバスが活用できるインフラの整備。公共交通機 関が充実することで、観光地の活性化も期待できる。

4. 課題「地域の魅力」

住みたい都道府県の魅力度ランキングが低いので、魅力度を上げていきたい。

- ・意識付け:活性化の県民運動
- ・ハード面:シャッター街の再開発、長期の都市計画
- ・若者に魅力あるまちづくり:「お前はまだ、群馬を知らない」と言われたが、それを映画化するなど、人材育成して働き手を増やしていく。

5. 課題「公共交通」

上信電鉄を安くする、バス路線を住民参加でコースを考え提案してもっと増やす。

6. 宝物「自然と人」

自然を守るには、人材の育成がとても大切。若い人の地域体験にシニアに協力してもらい、つながりをつける。生きる力、地域力を考えていかなけ ればいけない。

高齢者による交通事故が多発しており、高齢化社会における交通に対する課題を考えた。月に一回公共交通デーを作る。交通網の整備や意識 改革からインフラを整える。学校で教える事も大事だが、親が見本になって教育していく事が重要。

8. 宝物「豊かな自然」

教育が大事で、次世代に任せましょう。

9. 課題「群馬の人口減をどう突破するか」

人口が減ったままでがんばるなら、少数の人口で豊かな生活モデルを確立する。世界に渡っていけるトップクラスの人材をつくる。人口を増やすなら、 県外からの移住者、他の国からの受入れを進めていく。どちらにしろ、定年制を止めたり、テレワークを発展させていくなどの働き方改革と、交通網の 整備が必要。



群馬での取り組み

平成30年2月1日(木)14:00~16:35 前橋市総合福祉会館 文化教養室

群馬県地球温暖化防止活動推進センター 関東地方ESD活動支援センター

後援 群馬県

> 般70名+スタッフ11名+ 取材2社(群馬テレビほか)



■事例紹介

〇チャウス自然体験学校 <地域ESD活動推進拠点> 代表 加藤正幸氏 ONPO法人自然塾寺子屋 〈紹介ビデオ>上映〉

グループワーク: 群馬の"宝物"と"課題"の抽出 ピンクの付箋:「次世代に渡したい群馬の宝物」

水色の付箋:「群馬の課題」

を個人で書いて頂いた後、9つのテーブルごとでそれそれを共有した。各自で出された宝物・ 課題をグループ化し、それぞれ一つずつ、一番だと思われるものをグループ内で話あって、決め ていただいた。さらに、宝物・課題のどちらかのお話をするか、グループ内で決めていただいた。

| 関東地方ESD活動支援センター | Education for Contribution Commission